ウムの濃度が基準値の1㍑当たり6万㍃を下回るよう、タンクのトリチウム水を数倍～数十倍に薄めて処分する方法が想定される。ただ、東電はタンクごとの放射性物質の濃度を把握しておらず、全ての放射性物質が基準値を下回るのかも不明で、再度の浄化を迫られる可能性もある。

規制庁の担当者は、今後具体的な処分方針が政府や東電から示されれば、放射性物質濃度の確認方法など技術的な面を審査するとし「安心につながるかどうかを考えるのは東電の責任だ。残留状況などの情報を関係者にどう説明するのかも含め、丁寧に対応してほしい」と話している。

従来のFDRは約80種類のデータを集められ、耐衝撃性なども備えている。海外製の既存の簡易型は、高度や加速度など10程度のデータに絞られているが、操縦室内の画像や音声の記録も可能。今後、日本メーカーが参入する可能性もある。

安倍首相動静

（19日）

【午前】7時34分、宿泊先の山梨県鳴沢村の別荘から同県富士河口湖町のゴルフ場「富士桜カントリー倶楽部」。経団連の御手洗冨士夫名誉会長、榊原定征前会長らとゴルフ。

【午後】3時20分、別荘。6時44分、富士河口湖町の居酒屋「漁」。昭恵夫人、母親の洋子さん、秘書官らと食事。9時7分、別荘。宿泊。

四季風

2018.8.20

平成30年盛夏8月。広島と長崎では被爆73年の祈りの日があった。15日、来年に退位を控える天皇陛下が平成では最後となる追悼式で、「戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ」おことばを述べられた▼陛下は国民の象徴として「過去を顧み、深い反省とともに」、戦陣戦禍に散った人々に思いをはせられた。日本ばかりか多くの国の人に向けられたおことばでもあったろう▼この夏、山口市阿知須の総合病院会長、三好正之さんから便りをいただいた。お医者さんと呼ばれる三好さんはもうじき101歳。人のために余生を！が昨今の抱負で、心身が健康でなければと、「体と心を動かすことに努めている」▼三好さんは若い時、軍医として大戦に従軍、激戦のニューギニアから生還した。戦後はふるさとで地域医療や老人福祉に尽くしてきた▼「食料がなく、マラリヤやデング熱に侵され、銃弾で負傷しても治療する薬がない。軍医でありながら死亡させた」「苦しみから逃れようと自爆する戦友も多くいた」と戦場での生死をつづる▼この数日、時刻と場所によっては、風が涼を運んでくるようになった。じっとやせ我慢の猛暑の夏も歴史の一こまとなるまで、あと少し。（宇）